

## 平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(明和町)の概要

9月23日(月)に明和町の大淀コミュニティセンター大淀会館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、伊勢湾漁業協同組合大淀支所の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容紹介や漁業の良いところ、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

(活動内容紹介)

- 平成18年に合併して伊勢湾漁業協同組合となった。大淀支所は、組合員41名で、底引き網、アサリ、バカ貝、ノリ養殖などを行っている。アサリの現状は、岸から500メートル以内のアサリを採っており、数量50キロを上限としている。9月の台風18号の影響で、死骸が多く見られ、2～3割程度の生産減少は避けられない。バカ貝の現状は、24隻が出漁し、1隻あたり400キロの制限となっているが、量は少ない。ノリ養殖は竹打ちが終わり、今日から種付けが始まった。
- 平成18年の合併時には20億円近くの漁獲高があったが、今は12～13億円ぐらゐに激減している。組合としては、何とか頑張っている。

Q：漁業の良いところ、生産しているノリや貝の自慢できるところを紹介してほしい。自慢話をお願いしたい。

ノリ養殖は昭和30年代、40年代がピークで、昭和45年に149軒がやっていた。昭和52年にバカ貝が豊漁となり、2～3時間採り放題で、船が一杯になった。当時に、1日50～60万円になった。今は、400キロ制限がある。昔はものすごく魅力のある浜だった。トリ貝も1日で100万円あげられることがあった。

昭和50年代は、大淀の浜はものすごい魅力があって、高校を卒業しても就職なんて考えられなかった。バカ貝漁を半日すれば、サラリーマンの1月分の給料より多かった。あの当時は、三重県内で一番良かった。ここで働きたかった。

昔はトリ貝を採って、自分で加工していた。今流行の6次産業だった。昔は作業してくれる女性がいたが、その人たちも高齢化しており、6次産業がやりにくくなっている。若い人に魅力のある仕事ではなくなっている。

近頃、漁業の後継者がいないところが多いが、20代、30代の後継者が4～5人出てきているので、大淀はまだましかなと思っている。親子三代で漁師をしている人もいて、今年から、親子でアサリをやっている場合は、1.5倍採れるようにした。漁業士会の活動の中で、ノリを溶かして作ったソースを使った「漁師ピザ」をイベントなどで出している。ノリ、エビ、タコ、イカなどの旬の魚介類をトッピングしており、なかなか好評である。

大淀のバカ貝は甘みがある。アサリはだしがよく出る。今でも千葉や東京にバカ貝を送っている。日本一うまいバカ貝、アサリだと思っている。

Q：漁業を営むにあたっての課題、大変なこと、必要な対策は何か。困っていること、不安なことは何か。

アサリの稚貝の確保が課題である。伊勢湾漁協では、稚貝が育たない。三重県の行政の方から、鈴鹿地区、楠で稚貝の養殖をして、それを各支所に供給できると聞いた。その後、どれだけ進んでいるのか。稚貝がどこにいるか、どこから入れられるか、検討してほしい。

内湾はアサリが主になっている。三重県の特産物として、東京で日本一のうまいアサリを売りたい。3月、4月には、身が大きくて貝が割れるぐらいになる。しかも甘みがある。是非とも、三重県の特産物にしたい。

昔は、北風が吹くとノリが真っ黒になった。今は北風が吹くとプランクトンとか、赤潮が発生して、1月、2月には色落ちがして、金が儲からない。また、長良川河口堰ができてから、流れが変わって、魚介類、ノリが低下したように思う。四日市沖のヘドロでプランクトンは発生するのか。ヘドロは除去できないのか。

アサリ貝は海底に潜ってしまうので、ヘドロで蓋をされて貝が育たない。その上にあるヘドロを何とか対策できないか。

ノリの網を沖へ出すときに、アマモが多くて困っている。県で植えているアマモをやめてほしい。弊害が出ている。アマモがノリ網に付着し、ノリの芽が消えていく。この辺にとって一番悪いのは、宮川の河口で水の流れが悪いことである。宮川の水が湾に入ってこない。平成16年の台風で砂がたまる以前は、この辺の漁協は相当量の魚介類の水揚げがあった。それ以来、だんだん落ちてきている。砂利を採って

水の流れを良くすれば、元へ戻ると思う。ノリもアサリ貝もよくなる。県の普及員の人事が早すぎる。ノリが全然分からない職員が来て、2～3年してどうにか話ができるようになったと思ったら、替わってしまう。現場の職員はもう少し長くてもいいのではないかと。職員は、頭が下がるくらいよくやってくれる。底引き網をやっており、主にカレイやコチを捕っている。昔はイシガレイやモガレイが多かったが、今は、メイタガレイが主流になっている。どうしてなのか調べてほしい。北勢ではメイタガレイが珍しいと聞いている。原因が何かあると思う。ノリ養殖では加工作業があるが、燃料が高騰している。漁船の燃料は免税措置があるが、ノリを乾燥するA重油にはない。県ではなく、国の問題かも知れないが、何とかしてほしい。ノリ養殖で、燃料費の割合がものすごく高くなっている。三重県内の漁協が一本化されると聞いたが、本当にやるのか。平成28年に一本化という話だが、難しい問題が山積している。後継者をどうしていくか真剣に取り組まなければならない時期に来ている。

## 【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

9月28日に東京日本橋に「三重テラス」をオープンする。いつも貝を東京に送っているのなら、そこでも出せる可能性がある。日本一のアサリを自慢しよう。

アサリ稚貝の確保、ノリの色落ちの原因と対策、ヘドロ対策、アマモの移植等について、この場では分からないので、確認する。

宮川の堆積土砂は、平成16年の台風からずっと採ってきているが、平成23年の台風でまた増えてしまった。堆積土砂については、今年も通常より多くの予算をつけてやっており、来年も続けていきたい。

現場に出る人は人間関係もあるし、現場の状況を見なければいけない。現場職員の人事は重要なことであり、行政の中で対応できることなので考えてみる。よくやってくれると言われるのは嬉しいと思う。

魚種が変わってきた理由については、既に研究しているのがあるかも知れない。県でやっていなくて、三重大学でやっているかも知れないので、聞いてみる。

8月に、燃油の高騰対策を国に要望したが、加工の部分は入っていなかった。三重県単独で国に要望するよりも、他県と一緒にいった方がインパクトがあるので、他の県と相談して、地域の思いを伝えていきたい。

県内漁協の一本化については、県がやるかやらないかよりも、漁協の皆さんがどう考えるかが最初にある。県は、漁協の皆さんがそういう意思ということであれば、それをしっかり応援していくというスタンスである。

来年度は、特に水産業に力を入れる予算を組んでいこうと私は思っている。今日聞いたことをヒントに、しっかり県政に反映していきたい。日本一のアサリがどんどん県内・県外に流通するように頑張るので、一緒に頑張ろう。



**【伊勢湾漁業協同組合大淀支所の皆さんとは】**

明和町大淀地区の伊勢湾漁業協同組合大淀支所の皆さんは、健全に安心して漁業を営むことができる環境を将来にわたって提供し、消費者である県民・国民に安心で安全な水産物を安定的に供給することを担って漁業に取り組んでいます。